

特集

行政・教育機関・学校部活動と連携しているクラブ

さけがわ友遊C' Love ＜山形県最上郡鮭川村＞

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、地域のコミュニティと密接に関わっている行政や教育機関、学校の部活動とよいコミュニケーションを築くことが重要です。

そこで今回は、地域の行政・教育機関・学校部活動と連携しているクラブを紹介します。

👉 ここがポイント!

- ① スポ少・部活動の事務手続き等を受け持つことで、スムーズな連携が達成!
- ② スポーツのみならず、地域の伝統文化の継承も!
- ③ クラブの自主事業に各団体の人財・財源が加わり、Win-Winの協働関係に!



1 クラブ概要

地域住民の健康・体力向上、多世代交流による地域コミュニティの活性化を図ることを目的として、平成20年、村体育協会を中心に、体育指導委員や村内各種団体の代表によって設立準備委員会を発足しました。準備段階から生涯スポーツ担当課、健康福祉課職員も準備委員として参画いただき、地域住民、各種団体と連携を図りながら準備を進め、『心と身体健康づくり』『仲間づくり』『地域づくり』の3つの柱を理念に、平成22年『鮭川村総合型地域スポーツ文化クラブ さげがわ友遊C' Love (ゆうゆうクラブ)』設立に至りました。

「運動は苦手」という理由で設立に距離を置いていた地域住民の声を反映させ、クラブ名に「文化」を取り入れた経緯もあり、設立後は文化活動の展開にも力を入れ、地域住民のみなさんが参加できるよう様々なプログラムの提供を行っています。

サークル
(5種目)

ジュニア
スクール
(8種目)

スクール
(5種目)

イベント
(16種目)

健康づくり
事業
(17種目)

共催事業
(7事業)

2 連携内容

現在、スポーツ少年団(以下 スポ少)、中学校部活動(文化部含む)、小・中学校、村体育協会加盟団体、村文化団体、教育課、健康福祉課、むらづくり推進課、地域おこし協力隊、観光協会、自然保護委員会等、様々な団体や機関と連携しながら事業を行っています。

■ スポ少・中学校部活動

クラブ設立時に村内のすべてのスポ少や部活動に、設立の趣旨を説明しながら課題の聞き取りを行っていました。共通していたのが、指導者の確保や事務的な業務が保護者にとって大きな負担になっていることでした。その課題解決として、各団体の施設の申請や調整、傷害保険加入手続・事故受付、指導者の派遣をクラブが行うことを提案し、現在ではみなさんが会員となってクラブのイベントにも参加していただいています。

■ 小学校

教育委員会で実施している「放課後子ども教室」へのプログラム提供の依頼があり、クラブで行っていたプログラムをクラブスタッフが出向いて実施しています。今年度は、巨大英語かるた大会を実施しました。体育館全面にかかるたを拡げ、読み手を村内に配属されているALTに依頼し、遊びながら単語を習得し、正確な発音を聴く機会になっています。

また、運動会や陸上大会前に「陸上教室」、水泳授業が始まる前には「水泳教室」、スキー大会前には「スキー教室」を開催し、クラブスタッフの競技専門者が指導を行っています。参加児童の保護者からは、「走ることに意欲的になった」「プール授業が始まる前に泳げるようになった」「スキーが滑れるようになった」と好評で、保護者にもクラブの存在をアピールできる活動につながっています。中でも水泳教室では、学校の先生に指導方法の勉強を兼ねて参加していただき、指導の幅を広げる結果にもなっています。



■ 文化団体

長い歴史を持つ鮭川歌舞伎に興味を持っていただこうと、いままで開催したことなかった『歌舞伎入門講座』を鮭川村歌舞伎保存会に依頼し、保存会の皆さまに協力いただき開催しました。地域の若年層に知ってもらおうとの取り組みでしたが、これをきっかけに定期公演会のスタッフとしてクラブが携わることとなり、今後は歌舞伎役者として継承につながればと思います。



また、地域に昔から伝わる唄と踊り(羽根沢節保存会)の伝承を目的に毎年行っていたお祭りが、スタッフの高齢化、人手不足により開催が難しくなってきたため、当クラブが開催している夏まつりと融合し、若い世代の皆さんにお披露目する機会となりました。

■ 健康福祉課

以前は、健康福祉課にて実施していた「健康づくり」メニューが地域住民にとって唯一の運動・体操を指導してもらう機会でしたが、単発開催や短期間であったため、年間を通して開催してもらいたいとの要望がありました。クラブ設立後にその受け皿を担い、クラブのインストラクターが教室の指導をすることによって、地域住民の要望に応えることが可能となりました。翌年には「鮭川村健康づくり委託事業」として以降毎年実施しています。(H28:委託金600千円)

また、車移動のできない高齢者向けに各地区への出前教室を提案し、現在では委託事業の他に、高齢者介護事業、介護予防事業、地区サロン事業など、村内各地区に出向いて実施しております。(H28:合計67回、謝金単価1回7千円)

■ むらづくり推進課

村が実施している農都交流事業にて、冬のイベントでの受け入れの依頼があり、クラブが毎年開催している「雪まつり」への参加を提案しました。当日は雪ランタン、雪像作りを体験していただき、併せてまつりの運営をお手伝いしていただきました。(受入事業費123千円)



■ 地域おこし協力隊

鮭川村では現在3名の地域おこし協力隊が配属されています。当クラブのイベント参加をきっかけに連携するようになり、クラブスタッフと同様に企画・運営に携わっています。地域おこし協力隊は、地域に密着した様々な取り組みや村内外に向けた情報発信をしており、専門的なスキルや多世代とのつながりもあるため、クラブには欠かせない存在となっています。今年度は15の事業にて連携・協働しています。



■ 観光協会

クラブでは地域住民を対象に、村内の巨木や名所を巡る事業を実施していましたが、村観光協会では他市町村や県外からの参加者を対象に巨木トレッキングを行っていました。両者間で検討し、経費を抑えて開催できるクラブ側が業務委託として請ける形で一本化となりました。(H28委託費70千円)

それを機にクラブのイベントを観光協会が村外・県外に広報していただくようになり、集客につながっています。また、クラブのイベントで地元温泉を活用する際に、宿泊補助や温泉入浴割引も受けられ、参加者にとって大きなメリットとなっています。

3

連携したことによる クラブや連携機関・団体への効果・影響

クラブが各団体と連携することで、クラブにとっても連携先にとっても良い影響をもたらしています。スポ少・部活動との連携では単に保護者の負担が軽減されただけではなく、クラブが調整を行っているため、行政の体育施設の受付業務においても事務量の大幅な軽減につながっています。健康福祉課との連携では、連携する以前は職員がメニューを考え、指導者や会場を手配した上で当日の運営もしなければならなかったのが、行政がクラブに委託したことによってその業務がなくなり、それ以外の業務に手厚く従事できることにつながっています。いずれも連携した結果が行政にとっては業務の軽減につながり、クラブにとっては財源確保や、会員拡大に及んでいます。

むらづくり推進課、地域おこし協力隊、観光協会との連携においては、クラブとして新たな事業を展開したわけではなく、いままで行っていた自主事業を協働する形で、人財・財源が加わりました。何一つお互いにとってデメリットがない連携事業が、地域住民にとっても、自分に合ったメニューの選択が可能となって習慣的な運動が定着しています。地域住民の課題解決、地域コミュニティの活性化という効果にも結びついています。

4

今後の課題・展望

新年度は商工会や地元企業との連携を進めていくと共に、引き続き地域住民の声に耳を傾け、課題解決に向けた新たな事業を展開していきたいと思えます。連携は相乗効果を生み、連携によって更なる大きな課題解決、クラブの拡大、よりよい地域づくりにつながっています。
『連携=相乗効果』

(さけがわ友遊C'Love 阿部 諭)

クラブプロフィール

設立年月日 : 平成22年2月28日

所在地 : 山形県最上郡鮭川村

運営 : 会員数 : 302名 (平成29年2月現在)
予算規模 : 932万円 (平成28年度)

有給職員 : 2名

クラブ内資格 : 日体協公認アシスタントマネジャー 6名

保有者数 : 日体協公認競技別指導者資格3名

特徴 : クラブが活動している鮭川村は、山形県の内陸北部に位置しています。人口は4,400人、三世代同居率は日本一、村の中心を一級河川「鮭川」が流れる自然豊かで小さな農山村です。さけがわ友遊C'Loveでは運動プログラムのみならず、その豊かな自然を活用し、文化的要素も取り入れた観光事業や、多世代による交流事業など幅広く事業展開しています。

■ 連絡先

郵便番号	999-5201
住所	山形県最上郡鮭川村大字京塚1324-2 鮭川村中央公民館内
TEL	0233-55-3051
FAX	0233-55-3053
Eメール	sakegawa-kouminkan@diary.ocn.ne.jp
ホームページ	http://www7b.biglobe.ne.jp/~sakegawa_yu_yu_c_love/index.html